

October 4, 2022

**【前日の為替概況】ドル円 一時 144.16 円まで下落、米 10 年債利回りが 3.56% 台まで低下**

3日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反落。終値は144.55円と前営業日NY終値(144.74円)と比べて19銭程度のドル安水準だった。東京市場や欧州市場では145円台に乗せる場面もあったが、政府・日銀による円買い介入への警戒感が根強い中、上値は重かった。

NYの取引時間帯に入ると、9月米ISM製造業景気指数が50.9と予想の52.2を下回ったことが伝わり、米10年債利回りが前営業日比0.2631%低い3.5655%前後まで大幅に低下。全般ドル売りが活発化し、前週末安値144.21円を下抜けて一時144.16円まで値を下げた。ただ、引けにかけてはクロス円の上昇につれた買いが入り、144.79円付近まで下げ渋った。

ユーロドルは反発。終値は0.9826ドルと前営業日NY終値(0.9802ドル)と比べて0.0024ドル程度のユーロ高水準だった。予想を下回る米ISM製造業景気指数を受けて、米長期金利が急低下すると全般ドル売りが進行。米国株相場の大幅上昇につれて欧州株が持ち直したこともユーロの支援材料となり、一時0.9844ドルと日通し高値を更新した。その後の下押しも0.9789ドル付近にとどまった。

オセアニア通貨は堅調だった。ダウ平均が一時920ドル超上昇するなど、米株式相場が底堅く推移するとリスクセンチメントに敏感なオセアニア通貨に買いが集まった。豪ドル米ドルは0.6522米ドル、NZドル米ドルは0.5731米ドル、豪ドル円は94.36円、NZドル円は82.82円まで上昇した。

ユーロ円は小幅ながら4日続伸。終値は142.02円と前営業日NY終値(141.88円)と比べて14銭程度のユーロ高水準。21時前に一時141.37円と日通し安値を付けたものの、売り一巡後は買い戻しが優勢に。ユーロ円以外のクロス円が上昇した影響などを受けて、142.22円付近まで持ち直した。

ブラジルレアルは対ドルで一時5.1552レアル、対円では28.06円まで急伸した。2日投票が行われたブラジル大統領選では当選に必要な有効投票の過半数を得票した候補はなく、現職のボルソナロ大統領とルラ元大統領の2人による決選投票が行われることに決まった。この結果を好感する格好でブラジルの代表的な株式指数であるボベスパ指数が5.5%高の大幅高となり、通貨レアルにも買いが入った。

**【本日の東京為替見通し】本邦通貨当局の出方を見定め、RBA金融政策にも要注目**

本日の東京外国為替市場のドル円は、9月東京都区部消費者物価指数を確認後は、145円台に「神田シーリング」が設定されているのか否かを見極める展開が予想される。

昨日のドル円は、9月22日のドル売り・円買い介入以来となる145.30円まで上昇したものの、鈴木財務相の介入示唆発言「必要に応じて断固たる措置を取る」などにより伸び悩む展開となった。145円台での円買い介入がなかったため、「神田シーリング」は145円台という水準ではなく、22日のような急激な円安にブレーキをかける臨機応変の対応かもしれず、本日も本邦通貨当局の出方を見定めることになる。

本邦通貨当局の介入スタンスは、実需の円売りや円買いを相殺する介入となっている。すなわち、9月22日の円買い介入金額2兆8382億円は、8月の日本の貿易赤字2兆8172億円という実需の円売りを相殺している。

8時30分に発表される9月東京都区部CPI(生鮮食料品除く総合)は前年比+2.8%と予想され、8月の前年比+2.6%からの上昇が見込まれている。東京都区部CPIは全国CPIの先行指標と見なされていることで、予想通り上昇していた場合、9月の全国CPIが上昇する可能性が高まることになる。また、10月の全国消費者物価指数は、携帯料金引き下げ効果の剥落で+0.4%程度の上昇要因になることから3%台乗せが予想されている。

昨日発表された9月調査の日銀短観では、大企業製造業の景況感を示す業況判断指数(DI)がプラス8と発表され、3四半期連続での悪化だった。すなわち、今年のドル高・円安傾向がプラス要因となっていないことが示唆されたことになる。また、日本銀行が物価の基調を判断する上で重視している「企業の物価見通し」では、企業が想定する消費者物価の前年比上昇率は平均で1年後が2.6%、3年後が2.1%、5年後が2.0%となった。5年後は初めて2%の大台に到達しており、2014年以降の最高を更新している。

12時30分には、豪準備銀行(RBA)政策金利が発表され、利上げ幅や声明文に注目することになる。

RBA理事会では、5月理事会から5回連続での0.50%の追加利上げ、すなわち、2.35%から2.85%への利上げが予想されている。最近の理事会での声明文やロウRBA総裁の発言では、利上げペースを緩める可能性に言及されているため、本日も声明文に要注目となる。

**【本日の重要指標】** ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:30 ◎ 9月東京都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合予想：前年比2.8%）
- 08:50 ◇ 9月マネタリーベース

## &lt;海外&gt;

- 09:30 ◎ 8月豪住宅建設許可件数（予想：前月比10.0%）
- 12:30 ☆ 豪準備銀行（RBA）政策金利発表（予想：2.85%に引き上げ）
- 18:00 ◎ 8月ユーロ圏卸売物価指数（PPI、予想：前月比5.0%/前年比43.2%）
- 21:30 ◎ センテノ・ポルトガル中銀総裁、講演
- 22:00 ◎ ローガン米ダラス連銀総裁、あいさつ
- 22:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、あいさつ
- 22:15 ◎ メスター米クリーブランド連銀総裁、講演
- 23:00 ◎ 8月米製造業新規受注（予想：前月比横ばい）
- 24:00 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 5日 00:45 ◎ ジェファーソン米連邦準備理事会（FRB）理事、講演
- 5日 02:00 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、講演
- 欧州連合（EU）財務相理事会
- 中国（国慶節）、香港（重陽節）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

3日 10:05 鈴木財務相

「為替市場の動向、強い緊張感をもって注視」

「過度な変動には適切な対応をとる」

「為替の急激で一方向的な動きは好ましくない」

「今後とも必要なら断固たる措置をとる」

「先月の円買い介入規模は、当時の動きをみて総合的に判断した」

「投機筋の動きに対する牽制になっているのは間違いない」

「為替はいろいろな要因で決まる」

3日 14:14 岸田首相

「円安メリットを生かした経済構造の強靱化を進める」

「円安のメリットを最大限引き出し、国民に還元」

3日 15:29 クワーテング英財務相

「45%の最高税率の計画は進めない」

4日 01:30 バーキン米リッチモンド連銀総裁

「インフレが悪化するリスクに備える必要」

「インフレ率は高く、持続的で広範囲に及ぶ」

4日 04:12 マン英中銀金融政策委員会(MPC)委員

「インフレ期待の上振れを懸念している」

「インフレ期待やポンド安などの要因を理由に、9月に0.75%の利上げを支持した」

4日 04:16 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁

「インフレは依然として高過ぎる。FRBの仕事は終わっていない」

「世界的なサプライチェーンが緩和している兆しはある」

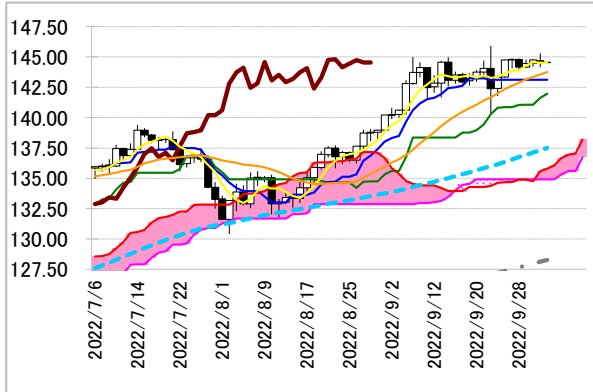
「インフレ率は来年までに3%に低下する可能性が高い」

「労働需要は依然として供給を上回っている」

「今年のGDPはほぼ横ばいになる可能性が高い」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

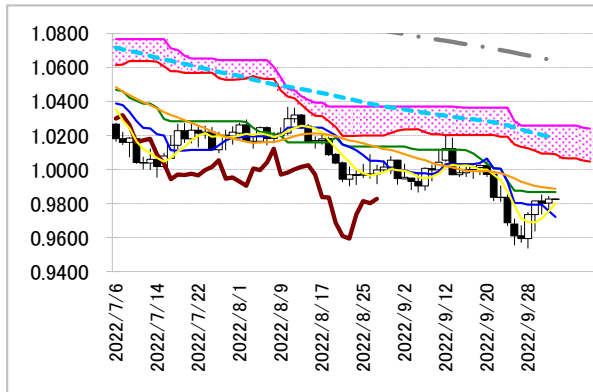


### <ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。9月22日以来となる145.30円まで上昇した後、144円台に戻されての引けとなったが、転換線を上回って引けており反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

|          |                      |
|----------|----------------------|
| レジスタンス 2 | 146.48(1998/8/14 高値) |
| レジスタンス 1 | 145.90(9/22 高値)      |
| 前日終値     | 144.55               |
| サポート 1   | 143.13(日足一目均衡表・転換線)  |
| サポート 2   | 141.98(日足一目均衡表・基準線)  |

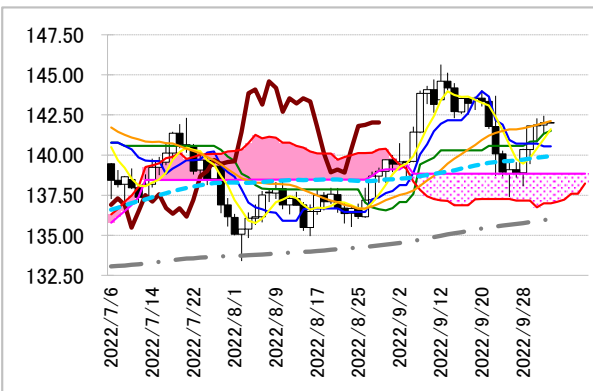


### <ユーロドル＝低下した転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けており、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、抱き線で反発して転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、0.97ドル前半まで低下した転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

|          |                     |
|----------|---------------------|
| レジスタンス 1 | 0.9977(9/21 高値)     |
| 前日終値     | 0.9826              |
| サポート 1   | 0.9722(日足一目均衡表・転換線) |

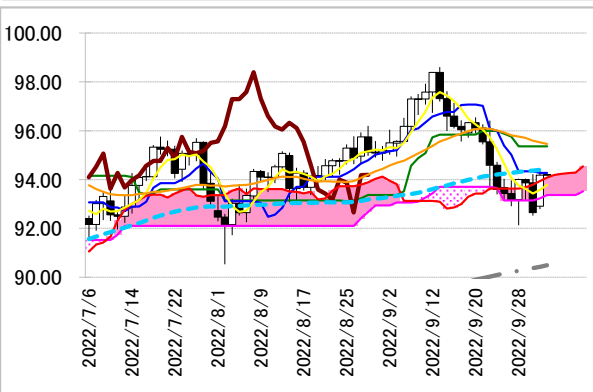


### <ユーロ円＝基準線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開。4手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

|          |                     |
|----------|---------------------|
| レジスタンス 1 | 143.70(9/22 高値)     |
| 前日終値     | 142.02              |
| サポート 1   | 141.52(日足一目均衡表・基準線) |



### <豪ドル円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

太陽線引け。雲の上で引けているものの、一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回っており、売りシグナルが優勢な展開。太陽線で反発して一時は転換線を超えたが、引け値は同線を下回っているため反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線94.27円や雲の上限94.08円を念頭に置き、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

|          |                     |
|----------|---------------------|
| レジスタンス 1 | 95.36(日足一目均衡表・基準線)  |
| 前日終値     | 94.18               |
| サポート 1   | 93.37(日足一目均衡表・雲の下限) |

